

令和 6 年度 第 3 回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和 6 年 11 月 27 日（水） 14：00～15：15

場 所：WEB 会議

構 成 員：18 名

出 席 者：12 名

大畑尚子(中部病院産科)、林絹子(中部病院腫瘍・血液内科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、屋宜孟(南部医療センター・こども医療センター小児血液・腫瘍内科)、岩崎政志(森川特別支援学校)、徳元亮太(沖縄がん教育サポートセンター)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、銘苅桂子(琉大病院産婦人科)、當銘保則(琉大病院整形外科)、喜納綾乃(琉大病院看護部)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：6 名

親富祖しのぶ(南部医療センター・こども医療センター看護部)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、宮平有希子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、浜田聡(琉大病院小児科)、仲地佐和子(琉大病院第二内科)、金城正樹(沖縄県教育庁保健体育課)、

陪 席 者：3 名

岸本こずえ(沖縄県教育庁保健体育課)、有賀拓郎(琉大病院診療情報管理センター)、石川千穂(琉大病院がんセンター)

【報告事項】

1. 令和 6 年度 第 2 回小児・AYA 部会 議事要旨(9 月 9 日)

資料 1 の通り確認された。

2. 小児・AYA 部会 委員一覧

資料 2 の通り確認された。

3. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧

資料 3 の通り確認された。

4. 助成金申請時のアプリ登録 100%に向けた対応について

銘苅委員より、資料 4 に基づき、説明があった。妊孕性温存療法の助成を受けるには研究に参加する事が条件であるが、アプリのダウンロードはできても最後まで登録できていない件数が多い状況があったので、登録を 100%にするために資料 4 のような説明書も充実してきているとのことだった。

5. アピアランス支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

て

6. 若年がん患者在宅療養生活支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

外間委員より、資料 5-1 と 5-2 に基づき、報告された。アピアランス事業にうるま市が追加されたとのこと。増田委員より、とても良い制度なので、全ての市町村が参加してほしいとの発言があった。外間委員より、情報は市町村に随時案内しているとのことだった。

7. 「ロジックモデルと指標活用の仕方を身に着ける研修会」への参加について

(開催日 12 月 22 日)

増田委員より、資料 6 に基づき、資料のように日程と開催方法が変更となったと案内があった。離島は WEB 参加が可能、本島の参加者は現地参加とのこと。

8. その他

特になし。

【協議事項】

1. 沖縄県の病弱教育における高校生支援の提案について

岩崎委員より、資料 7-1 と 7-2 に基づき提案があった。すでに検討が始まっている内容を省いて、優先順位の高い内容を要望する。要望書を更新後、改めて提示して頂くこととなった。

【病院宛要望書】

スペースが不十分な南部医療センター・こども医療センターと、教室の場所が確保できてない県立中部病院、それぞれの病院長宛に、環境改善のための要望書を提出する。

【教育委員会宛要望書】

銘苅委員より、現状について教育委員会に資料 7-2 に記載のある問題等を理解してもらい、要望書を提出できた後は、教育委員会と議論を行って頂くことが大切であるとの発言があった。増田委員より、「高校生支援における医教連携コーディネーターの配置」について、具体的にコーディネーターをどこに配置するか、誰が担当するのか、また人数も記載して頂くと、要望書としてより良いのでは、との意見があった。

その他、金城敦子委員から岩崎委員へ、離島の高校生の場合、ICT の貸し出しはどうなっているか質問があり、ニーズがあれば森川特別支援学校で対応するとのことだった。

2. 第 4 次沖縄県がん対策推進計画(協議会版)における所掌分野の進捗及び今期の部会活動について

増田委員より、資料 8 に基づき説明があり、分野アウトカムに載せるための小児及び AYA 世代の 5 年生存率が出ていないので、中間アウトカムをみながら具体的にやるべきことに関す

る意見を頂きたいとのことだった。中間アウトカム 4-2 指標について、下記のような質疑応答があった。

※中間アウトカム 4-2 指標「AYA 世代のがん患者のうち、診断又は治療目的で、県内のがん診療連携拠点病院(県立中部病院、那覇市立病院または琉球大学病院)または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。」

銘苅委員：AYA 世代の紹介率について、年間 30 人程しか紹介が無いということか。

増田委員：正確なデータは院内がん登録側でみているが、まだ出せていない。35%は医療者調査なので、見込み数であり、概ねこのくらい紹介しているという数である。

銘苅委員：妊孕性温存だけではなく、がん治療も含めての紹介ということか。

増田委員：妊孕性温存とは別の話となる。AYA 世代を診ることができる病院はたくさんあるが、学業の継続等いろいろバックアップが必要なので、3つの拠点病院に紹介してもらえれば、ということで決議した。

銘苅委員：女性だと乳がんがはいってきたりして、県内ではクリニックで診てもらっている場合も多いので、正確なデータを取るのは難しいと思われる。

増田委員：正確な割合は出ていないので、今後きちんと見ていきたい。

3. AYA サポートチームの構築について

増田委員より、資料9に基づき説明があった。銘苅委員より、いったんは、がんセンターにチームを作って、必要な場合に召集して対応する形ではどうか、と提案があり、増田委員より今年度中に作れるように検討すると返答があった。銘苅委員より、11月から琉大に、乳腺外科専門医が着任し、アピアランスや遺伝カウンセリングも含めた対応ができるようになったので、AYA 世代に関してはサポートをより一層充実できるのではないかとのことだった。

5. 次回開催について

第4回部会は2月に開催予定。日程調整アンケートを事務局から案内する。

6. その他

特になし。

以上